

# 2018年度TOP BALL杯多摩川親善野球大会「ジュニア・教育の部」大会約款

(調布市、狛江市、多摩市、三鷹市)

本大会は、2018年度公式野球規則、2018年度競技者必携少年野球に関する事項および次に定める特別規則を適用する。

## 1. 試合イニング

試合は5回戦とするが、試合開始後1時間10分を経過したらそのイニングを最終回として、均等回の得点で勝敗を決める。なお、教育クラスにおいては、『5点ルール』を適用し1イニング5点取った時点で攻守交代とする。

## 2. コールドゲーム

3回終了時以降10点以上の得点差、4回終了時以降7点以上の得点差がついた場合は、コールドゲームとする。

## 3. 特別継続試合

試合開始より1時間10分以内で、3回以前に中止になった場合(ノーゲーム)および3回を過ぎて同点で試合が中止になった場合(正式試合でタイゲーム)は、再試合とせず翌日または後日継続試合として行う。また3回表が終了した時点で後攻チームの得点が多い場合は成立試合となり、後攻チームの勝ちとする。

## 4. 特別延長ルール(タイブレイク方式)

5回が完了もしくは試合開始から1時間10分が経過して同点の場合は、特別延長戦を行う。

前イニングの最終打者を一塁走者、その前の打者を二塁、三塁の走者とし、無死満塁の状態で行う。特別延長戦は、最大2イニング行う。それでも勝敗が決定しないときは抽選で勝敗を決定する。なお、教育クラスにおいては、特別延長ルール時には『5点ルール』を適用しない。

## 5. ベンチ入り

ベンチに入場出来る大人は、代表者1名、監督1名、コーチ2名、スコアラー1名、給水係2名の最大7名とする。また代表、スコアラー、給水係は、ユニフォームを着用せず(コーチと区別出来るものを着用)、チーム帽子を着用する。

※監督・コーチの背番号は30, 29, 28を基本とするが、それ以外の背番号のものがベンチに入る場合は事前に大会主催者に申し出るものとする

## 6. 用具など

試合中打者、走者、次打者、ベースコーチは、公認(JSBB)の両耳付のヘルメット、捕手は公認マスク、プロテクター、レガース、ヘルメットを着用しなければならない。なお、ファールカップについては、着用を推奨する。

## 7. その他

- ① ベンチおよびスタンドでは笛や太鼓などの鳴物の使用を禁止し、相手チームへのヤジや挑発的な行為はしない。同類の行為を続けた場合は、チーム責任として監督を退場とする。
- ② ベンチは、抽選会で決定した組合せ番号の若いチームを一塁側とする。攻守は審判立ち合いのもと主将のジャンケンで決定する。
- ③ 試合前のシートノックは、実施しないものとする。
- ④ 各チームは試合開始の60分前までに集合し、30分前までに各会場にメンバー表(3枚)を提出する。
- ⑤ 投手の準備投球は、初回および救援投手は7球、次回以降は3球とする。
- ⑥ 投球規定を適用し、投球は1日5イニングまでとする。
- ⑦ 本大会に参加する選手は、スポーツ安全保険に加入済みであること。
- ⑧ 大会約款に定めのない事項で協議が必要な場合は、大会本部と参加連盟で協議し、これを解決する。
- ⑨ 教育大会はイニング間での投手の準備投球の捕手及びコーチは登録コーチが行う事を認める。
- ⑩ 試合終了時のグラウンド整備は勝利した当該チームが行う。

- ⑪ 試合前の練習場についてはありません。但し、多摩川グラウンドの各面において当大会の試合が無い場合において、最短で試合を実施するチームを優先とし試合が行われていないグラウンドにおいて練習可とします。
- ⑫ 試合開始後 40 分経過後もしくは 3 回終了後、次の試合の一組のバッテリーのみ試合予定ベンチ側の外野にて投球練習可能とします。投球練習中は、バッテリーの安全を確保するためにコーチを 1 名付けるものとします。
- ⑬ ボークについて  
1 投手に対して 1 回目は注意、2 回目からはボークを適用するものとする。  
本項は、教育およびジュニアの大会のみの適用とする。
- ⑭ ヒット・バイ・ピッチについて  
打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたとき、球審は攻撃側の監督と協議して臨時代走（直前の打順の選手でバッテリー以外）の処置をおこなうことができる。
- ⑮ タイム回数について
- ①監督のタイム  
監督が 1 試合に投手のところに行ける回数は 3 回以内とする。  
なお、タイブレーク方式になった場合は、2 イニングに 1 回行くことができる。
- ②守備側のタイム  
捕手または内野手が 1 試合に投手に行ける回数は、3 回以内とする。  
なお、タイブレーク方式になった場合は、2 イニングに 1 回行くことができる。  
野手(捕手含む)が投手のところへ行った場合に、そこへ監督が行けば双方 1 回として数える。  
逆の場合も同様とするが、投手交代の場合は監督のみとして回数に含まない。
- ③攻撃側のタイム  
1 試合に 3 回以内とする。  
なお、タイブレーク方式になった場合は、2 イニングに 1 回行くことができる。  
守備側がタイムしたときに、攻撃側の監督が打者またはランナーを呼んだとき、または監督がベンチを出たとき、球審は監督に対して攻撃側のタイムとして数える旨を伝える。
- ⑯ ジュニアおよび教育大会については、一塁および三塁コーチャーにベンチ入りの監督もしくはコーチが入ることもできる。
- ⑰ 給水タイムについて  
試合が攻守の交代がないまま延々と進行している場合や、天候の状況等により、審判員は選手の健康に配慮して、適時給水タイムを取ることができる。給水タイム中は時計（タイマー）を停めるものとする。
- ⑱ 審判へのお茶出しについて  
特に審判員から申し出がない限り、2 回および 4 回終了時に、一塁側ベンチは球審および一塁審、三塁側ベンチは二塁審および三塁審にそれぞれお茶出しをお願いします。

以上